

JANU

国立大学協会情報誌
Quarterly Report

Vol.20 March 2011

【特集】国立大学—日本の“智”を発信する

智の継承

伝統的研究成果を未来へ

宇都宮大学 秋田大学 静岡大学
東京藝術大学 岡山大学 山口大学
三重大学 京都工芸繊維大学 広島大学 愛媛大学

支部通信

室蘭工業大学 山形大学 東京工業大学 埼玉大学
名古屋大学 奈良女子大学 高知大学 宮崎大学

今、学生は!

京都大学 ブーメランサークル「く」
よい成績を収めることで
ブーメランの普及に貢献したい

Opinion

楊逸氏

成功も苦勞も失敗も
すべてのことが大事な経験

Voice

木場弘子氏

知識が現実の社会と結び付いた教育が
大学生にこそ必要です



Opinion

Yang Yi

楊逸氏

成功も苦勞も失敗も すべてのことが大事な経験

留学生として来日し、外国人として初めて芥川賞を受賞した作家の楊逸さんに、日本の社会に深くかかわった外国人として、学生時代の経験や、現代の学生に感じることなどについてお話を伺いました。

地理学科で見聞を広めた 学生時代

私は1991年にお茶の水女子大学に入学しました。当時、中国の大学は、教員も学生も大学の敷地内で一緒に生活しており、朝早くから大きな声を出して朗読するなど喧騒の中で生活しているようでしたが、日本の大学は、それぞれの家から通学して来るので、大学がとてもすっきりしていると感じました。講義では、先生は淡々とお話をされ、また、学生ももの静かで行儀がよく、優等生という印象で、講義中は質問もしないというように、とてもおとなし

いといった印象を持ちました。

大学では、「日本のいろいろな所に行けるのでは」、という理由で地理学を専攻しました。講義の中では、観光客だったら行かないような農村や漁村や、横浜みなどみらいの都市計画の現場を訪れたり、東京ディズニーランドの開発計画を聞きに行くことができ、日本がどうしてこのように経済発展ができたのかなど、ただ訪れるだけでは興味を持たないようなことを学ぶことができました。恩師が、「地理は、あらゆる学問の基礎だ」とおっしゃっていました。なるほど地理学には歴史、経済、産業、行政など、さまざまな要素が含

まれており、地理学を学んだことで、いろいろなもの見方ができるようになりました。他のどんな学問よりも多方面から、深く日本を知ることができて、本当によかったと思っています。

留学生が必要とする 支援をしてほしい

お茶の水女子大学には当時、学部
の留学生が入れる学生寮がなく、大
変苦勞しましたので、留学生用の寮
があると思います。

奨学金をもらいましたが、留学生
向けの奨学金は種類も金額も少なく、
毎年は受給できませんでした。留学

生向けの奨学金を、もっと充実して
ほしいと思います。ただし、留学生
は自分の意志で来ているので、相手
の国や大学に多くを望むのは、筋が
違うのではないかと思います。

私は学費や生活費を補うために、
アルバイトをしていました。アルバ
イトをすることで、日本の社会との
接点を持つことができ、大学では学
べないことを、たくさん学ぶことが
できました。その体験は、作家とし
ての今の生活にも生きていると思ひ
ます。

また、日本語や日本の文化につい
て学ぶ「日本語・日本事情」という
留学生のための講義がありました。が、

楊逸 (ヤン イー)

1964年 中国ハルビン市生まれ

1987年 来日

1995年 お茶の水女子大学卒業

2007年 在日中国人向けの新聞社の記者、中国語教師などを
経て、『ワンちゃん』(文藝春秋) で作家デビュー。
第105回文学界新人賞受賞

2008年 『時が滲む朝』(文藝春秋) で第139回芥川賞受賞



知らない世界に飛び込む勇気と 生き抜く覚悟が人生には必要

もつと現実を起こっている問題を取り上げていただければ、留学生にとって更に役に立つようになるのではないのでしょうか。

**企業にとって役立つ人材なら
留学生でも就職はできる**

卒業後は、帰国することなく、日本で就職しました。企業としては、今のように海外に支店を出すなど、海外での業務が多くなれば、留学生を積極的に採用するようになると思いますが、当時の日本の企業は海外とやり取りをする仕事は少なく、留学生が日本で就職するのは難しいことでした。

当時、私は日本語が随分と分かるようになっていましたが、言葉の問題は採用する企業にとって不安材料です。当然、就職は難しいと思っていましたので、必死に就職活動をしました。でも、留学生だからといって、採点を甘くしてほしいとは思いませんでした。

私は、留学生枠を設けてまで、企業にとって不安な要素を持つ人材を義務的に採用させることはすべきでないと思います。

**努力した人が報われる
環境づくりを**

日本は、あらゆることに関して社会的な保障が進んでいて、困ったことは国が何とかしてくれるという風潮があります。でも、外国人の目から見ると、日本人は国に頼り過ぎのように思えます。もう少し一人ひとりが努力してもいいのではないのでしょうか。

そのためには、努力をした人が報われるような、また、努力しない人にやる気を出させるような環境が必要だと思います。

平等を尊重し、差をつけることはよくないという考え方は分かります。しかし、それでは努力する人の気持ちに萎えてしまいますし、努力しない人はそのままです。努力する人と努力しない人を一律に支援する必要はないと思います。

**若い時代の経験が
その人を作る**

2009年から私立大学で中国の古典文学を教えています。学生はとてもおとなしく、活気がありませ

ん。以前、学生たちに「自分にとって一番充実した時間」について発表させたことがありましたが、最も多かったのは、「ぼーっとしている時間」という意見でした。誰だっ、ぼーっとしていたい時はあると思いますが、そんな時間が一番充実しているというのは、私にはどうしても理解できません。

最近は海外に留学する日本人が少なくなっているようですが、留学したら苦労するだけです。それは当然なのかもしれません。

しかし、若い時は唯一無茶ができる時期です。せっかくの青春時代を、無難に過ごしてしまうのは、もったいないと思います。

私が、日本語も分からないのに日本に来てしまったように、緻密な計画などなくてもいいのです。とにかく若い時にいろいろな体験をして、見聞を広めて、生きる楽しさを発見してほしいと思います。成功も失敗も、その人を作る大事な要素になるのですから。



Opinion

【特集】

国立大学—日本の“智”を発信する

宇都宮大学
秋田大学
静岡大学
東京藝術大学
岡山大学
山口大学
三重大学
京都工芸繊維大学
広島大学
愛媛大学



智の継承

The Succession

それぞれの地域の歴史や文化の個性を認め、新たな価値を見いだすことで、これからの社会を豊かにする思考や発想は生まれてきます。今号の特集では、全国の国立大学が行っている調査や研究を次世代に伝え、社会に貢献する試みを紹介します。

宇都宮大学

伝統素材「和棉」の再生から 地域活性化を目指して

生

物多様性の急速な損失が、人類の未来に深刻なダメージを与えることは、数々の報告からも明らかです。生物多様性の保全には、先住民族の文化や伝統的知識の保存と継承が必要です。

日本では里山里海に代表されるような、共生を前提とした生活価値の再生が、生命循環型社会の構築につ

ながり、持続可能な社会を次世代に保障することになります。

そのためには、産官民が一体となった地域レベルでの取り組みが必要であり、なかでも環境に配慮した開発の実現には市民との対話や普及活動を伴った実践的な教育活動が成功の鍵を握っています。

宇都宮大学が行っている研究は、地域の伝統素材である真岡木綿を環境教育素材として再生し、そこにかかわる異世代間の学び合いを通して、地域活性化を目指す官民学連携のモデル事業です。

伝承が持つ循環思想を 環境教育に生かす

東アジア圏を中心に、藍染は古くから利用されてきましたが、日本で藍染が生活文化として定着したのは、江戸中期以降でした。和棉という貴重な素材の使用が庶民にも許され、普及したことで、日本人の繊細な色彩感覚がジャパンブルーと呼ばれる高い藍染技術を育てたのです。

しかし、明治期になると繊維産業の近代化により、機械紡績に不向き

な和棉は輸入品に取って代わられ、昭和初期には姿を消しました。かつては200種以上の在来種が農水省に保存されていましたが、国内生産は必要ないと判断で廃棄され、現存するものは40種にまで減っているのです。

和棉で作られた綿衣料は、何度も染め直して大切に使われ、更に中古品として再利用され、継ぎ接ぎされ、最終的に裂き織りになり、夜着など寒さから命を守る衣服として極限まで使われてきました。1200年以上続いたこのような伝統を継承していくことは、生物多様性の観点からも大きな責務です。

同大学では、こうした和棉の歴史性とそこに秘められた循環思想に着目し、伝統染織の視点から環境教育を構想しています。この取り組みの



産着製作の準備（手紡ぎ糸を総〈かせ〉から玉にする高齢者）

活動拠点である栃木県高根沢町の老人福祉施設の畑では、施設を利用する高齢者と地元の子どもたちが協働で和棉を育てています。収穫した綿でボランティア会員が糸を紡ぎ、高齢者が産着を編み、町内で生まれる赤ちゃんに着せらる。この活動には、かつて家庭で行われていた伝承を、地域ぐるみで循環させるプロセスを通して、そこにかかわる各世代の価値を創出していく狙いがあります。

高齢者と子どもが協働することで、核家族化により不足しがちな斜めの関係性を補い、手紡ぎ糸から産着を作ることで生きがいを創出する。こうした地域ぐるみの伝承により「つながり」の温かさが実感できる町作りをしようと、手間ひまをかけて和棉を育てています。



綿摘みをする高齢者と地元保育園児



綿繰り体験

秋田大学

人の力を生かす 国立大学唯一の「社会通信教育講座」

地

球規模の資源・環境・エネルギー問題を考える時、資源の乏しい日本では、人材の創出こそが最大の「資源開発」であり、問題解決への糸口であると考えます。

秋田大学工学資源学部の前身、秋田鉱山専門学校は、1948年、職場の勤労者に技術を教授することを目的に、全国に先駆けて採鉱・冶金・電気学科からなる通信教育部を開設しました。「秋田大学工学資源学部通信教育講座」は、そこから生まれた国立大学唯一の社会通信教育です。鉱山技術者養成の歴史と伝統を引き継ぎ、循環型社会構築のリーダーとなる人材の育成を進め、これまでに約1600人を超える修了生を社会に輩出しています。

通信教育講座は資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースと、科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースからなり、職業上必要な知識や技術の習得と教養のレベルアップを図ることができます。18歳以上なら誰でも、いつでも入学できる自由化されたシステムによって、生涯学習

の役割を果たしてきました。

修了生の中には通信教育講座で学んだ知識を生かして「生涯学習インストラクター」の資格を取得し、仕事の傍ら地球科学教育や地球環境問題などに取り組んでいる方もいます。

地球を知ることを通して、今できることを考え、実践する。通信教育講座では、広く教育を受ける機会を提供することで、地域の振興と地球規模の課題解決に貢献できる人材を、1人でも多く輩出すべく取り組んでいます。



夏期に行われるスクーリング授業

静岡大学

考古学フィールドワーク教育

静

岡は登呂遺跡の発掘に始まる戦後考古学発祥の地です。この地に根差す静岡大学には、1955年の文理学部史学研究室の創設以来、現在に受け継がれる考古学研究の伝統があります。

この50年以上にわたる同大学考古学の基盤を成すのは、静岡県内をフィールドとした、調査・研究の蓄積です。

磐田市西貝塚（縄文時代）、菊川市白岩遺跡（弥生時代）、掛川市春林院古墳（古墳時代）、静岡市東山田瓦窯（奈良時代）など、原始・古代の各時期にわたる遺跡の調査と、そこから導き出された文化や社会像は、戦後の新たな古代史の形成に大きな影響を与えました。また、教員と学生がともに遺跡に立つて調査・研究に打ち込む環境で育った卒業生は、考古学の分野のみならず、社会で広く活躍しています。

近年、そうした伝統を引き継ぐ活動を「考古学フィールドワーク教育」として位置付けました。最近では、列島の農耕起源に迫る静岡市手越向山遺跡の畑跡の調査や、初期大和政権とのかわりを示す静岡市神明山



発掘調査の様子（静岡市手越向山遺跡）

1号墳の調査など、身近な地域で学生とともに行った調査が成果を上げています。

また、登呂遺跡復元水田での実験考古学やキャンパスミュージアムでの展示に取り組みなど、考古学の新たな視点や地域に根差す普及活動を通して学生教育にも力を入れています。

東京藝術大学

「芸術大学」の特性を生かした
全国唯一の大学美術館

一般の美術館が行っているコレクションの調査・整理・保存・修復と公開、特別企画展の開催という活動に加え、東京藝術大学美術館は、制作と教育研究の現場である芸術大学という特性を生かし、実験的な美術館として機能することを基本理念としています。

本館、正木記念館、陳列館のそれぞれの展示空間には、異なる建築様式や機能を持たせ、照明や展示技術に工夫を凝らすことで、前例にとられない新機軸の展示を行っています。例えば「明治の彫塑 ラグーザと荻原礫山」展では、展覧会に出品



「明治の彫塑 ラグーザと荻原礫山」展 (2010年) の展示風景

するラグーザの石膏像が展示前に修復クリーニングされる過程を事前に一般公開し、また、荻原礫山の代表作《女》は、重要文化財の石膏原型、制作年代の異なる3体のブロンズ像、3Dデータから铸造した最新のブロンズ像など合計7体を比較展示し、最新の像は、手で触って質感を鑑賞できるようにしました。

岡山大学

貴重資料の
デジタル化による
教育への利用普及

岡

山大学附属図書館は、旧岡山藩主池田家が収蔵していた資料

(古文書・絵図類・和書・漢籍)

約10万点を「池田家文庫」として所蔵しており、3000点余りの絵図類のうち、約8割をデジタル化しています。

これまでも展示会の開催や、インターネット上での資料公開などを行ってきました。

山口大学

東アジア研究の老舗

山

口大学東亜経済研究所は、戦前から東アジア関連資料の収集、研究、教育活動を進め、東アジア研究の中心として多くの成果を上げてきた「東アジア研究の老舗」です。

なかでも中国関連の貴重な資料や日本経済史関連の資料は1世紀にわたって収集され、蔵書約13万冊になります。この資料を活用し、中国の企業改革や消費生活・消費者行動の



後楽園で、江戸時代の絵図を確認する子どもたち

近年では、江戸時代の城下町や岡山城などの絵図を手を持ちながら、現在の岡山市街を歩くという公開講座や、拡大縮小しても画質の変わら



研究所関連学術雑誌及び広報誌

実態調査、農村人民公社などの研究を行ってきました。成果は学術雑誌『東亜経済研究』に掲載し、学会からも高く評価されています。また、東アジア経済の具体的事例や韓国・中国・日本における雇用状況などのシンポジウムも開催しています。

2008年3月には新しい東亜経済研究所棟が完成し、東アジア及び地域社会との交流、そして研究拠点としての飛躍が期待されています。

ないデジタル化された資料の特性を生かし、4・5メートル四方まで拡大した1863(文久3)年当時の後楽園絵図の上を歩いて学んだ後に、実際に現在の後楽園を散策して比較するという子ども向けの体験型ワークショップなどを行いました。

これからもデジタル教材の作成やデジタルミュージアムでの展示、公開講座などで活用していきます。

三重大学 集落の「限界」を 乗り越える

現 在、日本には高齢化率が50%以上あり、そのうちの約4000集落は10年以内に消滅すると言われていきます。学校が消え、若者が消え、そして祭りや伝統行事までもが消えつつある集落は、そのまま消えゆくだけなのでしょうか。

三重県尾鷲市は太平洋・熊野灘に面した多くの小規模漁村を抱える町です。海岸沿いに点在する漁村では伝統的な大型定置網漁（大敷）による鰯漁が盛んで、今日でもいくつか

の集落でこの漁法が用いられていません。しかし、担い手の高齢化と後継者難に伴い、人口が減少し、高齢化率も50%を超える、いわゆる「限界集落」が現れ始めています。

三重大学では、こうした高齢化や過疎化によって自力での再生が難しい集落に官民学の力を結集させ、活力と元気を取り戻す試みを進めています。その一つとして、大学と三重県、尾鷲市、集落住民たちが協力し、「限界」を乗り越えるための、集落再生プロジェクトを立ち上げました。県と市は予算の確保や地元とのコーディネートを担当し、大学は学生を中心としたチームを編成し、現地住民との対話や交流を担当しました。それぞれの得意分野を生かした分担編成であり、特に若さと実行力を持った大学生の底力が、このプロジェクトで存分に発揮されることになりました。

地域資源の再検証が 集落の再生につながる

数十回に及んだ住民ワークショップでは、学生は外部の若者の視点からさまざまな意見を述べ、住民たちの自立心と愛郷心を導き出しました。また、集落内の清掃や夏祭りを手伝えることで、住民の信頼を得て、徐々に集落に溶け込んでいきました。定期的に開催される住民との交流会で



水揚げされた魚の選別作業に参加する学生

は、漁業や魚の仕分け作業、農作物の収穫、郷土料理作り、昔の遊び、集落マップ作りなどを体験し、地域資源の掘り起こしや魅力の再発見に寄与しました。

現在、集落内には官民学による複数の研究会が立ち上がり、更にいくつかの事業が具体化するまでに至っています。「人口が減り、高齢化率が高くなっても、『限界』は乗り越えられる」そう感じさせてくれる試みと言ってよいでしょう。

同大学では、現在、県内3カ所と同様の取り組みに着手し、山村や農村など、集落に応じたプロジェクトを組み、官民学連携のさまざまな支援の在り方を検討しています。しかし、現在でも集落の維持、再生のため

地域の方と一緒に、郷土料理作り



めのノウハウやプログラムの蓄積は、決して十分とは言えません。大学の資源・財産でもある学生と、コミュニティの再生を願う住民たちをさまざまな状況、条件で結合させ、そこに新たな輝きや変化を生む。地域社会にこうした「化学変化」をもたらすための実践が、今後数多く求められるのではないのでしょうか。



子どもたちとの集落マップ作り

京都工芸繊維大学

100有余年にわたる貴重資料

美 術工芸資料館は、1902(明治35)年に京都工芸繊維大学の前身である、京都高等工芸学校が開学して以来、同校が教材として収集した資料を保存するとともに、それらを展示・公開するため、1980年に設立されました。

現在4万点を超える収蔵品は、絵画、陶磁器、染織品、建築図面など多岐にわたります。

なかでも充実しているのが、開学当初からの収蔵品である欧米や日本のポスター類で、これらは19世紀末以降の社会風俗やデザイン、印刷技

法などの変遷を知ることができる貴重な資料です。

こうした収蔵品は、同大学の講義・実習などの教材として、学生の教育に役立つとともに、近隣の小学生を対象とした美術教室でも使用することにより、小学校教育にも貢献しています。

更に美術工芸資料館で一般に展示・公開することで、これらの貴重資料の価値を、広く社会に発信しています。



「コロナタイプで蘇る法隆寺金堂壁画」展における小学生を対象とした美術教室

広島大学

平和を伝え、考える「平和科目」の新設

広 島大学は基本理念5原則の第一に「平和を希求する精神」を掲げており、戦争の悲惨さ、原爆のおぞましさを理解するとともに、「

「貧困」「飢餓」「環境」など、さまざまな観点から広く平和について考える場を提供したいと考えています。

そこで同大学では、教養教育改革の一環として、2011年度から「平和科目」を新設し、全学必修とします。初年度は25の平和科目を準備しており、その中ではこれまで実施していた「平和モニタリング見学レポート」も、引き続き行います。これらの平和科目が、「ヒロシマ」の精神を基にして、更なる「平和を考える場」となることを期待しています。被爆地ヒロシマに根ざす同大学は、平和に関する授業を通じて、平和について考えると同時に、豊かな人間性の育成を目指しています。



平和記念公園の原爆死没者慰霊碑と原爆ドームを訪れる学生

愛媛大学

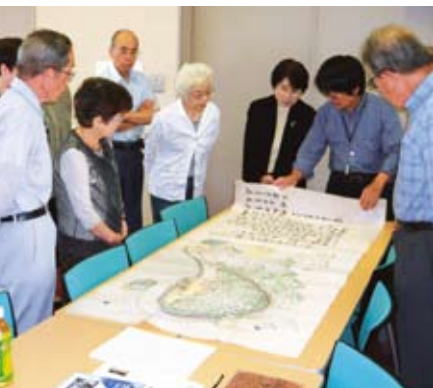
愛媛資料ネット

愛 媛大学では、日本史を専門分野とする教員と学生が、地域史研究団体や高校教員などとともに、「愛媛資料ネット」(芸予地震被災資料救出ネットワーク)を結成し、地域歴史資料を調査・整理・保存する活動を行っています。

「愛媛資料ネット」は2001年に起きた芸予地震の際、地域の歴史資料を救出・保全するために発足したボランティア団体です。その時は解体寸前の蔵などから、地域の貴重な歴史資料を数多く救出しました。その後は大規模災害時の混乱で、

その後は大規模災害時の混乱で、

その価値が認識されなまま歴史資料が破棄されることを防ぐため、寺院や旧家にある資料の調査・整理活動を積極的に行っています。また、一般の方に資料整理作業を体験してもらうことで、地域歴史資料への関心を高め、その保全につなげる試みとして、定期的に講習会を開催し、資料の調査・整理方法の普及に努めています。



一般の方を対象とした講習会

木場 弘子

Voice

“発信する人”からのメッセージ

木場 弘子（きば ひろこ）

フリーキャスター、千葉大学教育学部特命教授。千葉大学教育学部卒業後、1987年TBS入社。初の女性スポーツキャスターとして活躍し、1992年フリーランスに。2001年、千葉大学教育学部非常勤講師として教育の現場に携わり、2006年より現職。2008年から政府の教育再生懇談会メンバー。

今の若い教員は、保護者との会話で臨機応変に対応できずコミュニケーションに困っていると聞きます。

私が千葉大学教育学部で「教育と表現」という講義を行って、10年になりますが、お話するのは、自分のキャスターとしての経験に基づいたコミュニケーション法について。人と接する時の自己表現の仕方、相手の気持ちや考えの引き出し方などを、インタビュー取材を例に具体的にお話します。また、教科書を表面的に教えるだけでなく、そこに教員自身の体験を加えて、説得力を持って語るができるよう、時間がある学生のうちにさまざまな体験をするよう勧めています。

教育は、子どもたちの心に興味の灯をともしあげること。教え込むのではなく「育む」教育をしてほしいと思います。今の教育は、失敗ないように教えることはしますが、失敗した後どう立ち直るかは教えません。そのため学生には、今のうちに失敗したり、弱みを見せたりしていいと話しています。大学4年間を通じてたくさんの苦勞をして、自分なりの考え方を身につけてほしいのです。

小学校から大学へ進むにつれ、教育は知識偏重になりがちですが、知識は、現実と関連付けて学んでこそ生きるはず。特に、間もなく社会に出る人材を育む大学は、知識と実社会を結び付けた教育をする必要があるのではないのでしょうか。

知識が現実の社会と結び付いた教育が
大学生にこそ必要です



支部通信

全国の国立大学が取り組む新たなプログラムや地域に密着した研究、ユニークな活動など、新鮮な話題を各支部からお届けします。

3 東京工業大学 (東京支部) 世界第2位の省エネスパコン

2010年に発表されたスパコンの省エネランキング「The Green500 List」で、東京工業大学のTSUBAME2.0が世界2位となりました。

TSUBAME2.0は、前機種であるTSUBAME1のアジア1位の性能と使いやすさの同時達

成をもとに行われた研究成果が結実したもので、最高理論性能、通信性能はTSUBAME1の30倍、記憶容量は10倍を実現しながら、消費電力は同程度、大きさは約2/3です。

TSUBAME2.0は、目下日本最速機として気象、バイオ、医療分野などの実際のアプリケーションで世界記録的な性能を達成しており、日本の高性能計算の国家インフラであるHPCIにおいて中心的な役割を果たすと期待されています。

「The Green500List」の表彰状



1 室蘭工業大学 (北海道支部) 「ロボットアリーナ」を開設

室蘭工業大学は、市立室蘭看護専門学院の体育館に、ロボット技術の普及、並びにそれを核としたさまざまな地域貢献を果たす舞台として、地域公開型施設「ロボットアリーナ」を創設しました。

ここでは小中学生を対象と

したロボット教室、地域住民向けの公開講座などを行い、地域と連携した先端ロボット技術開発と新産業創出、地域実践課題を取り入れたプロジェクト学習などを行っています。

また、この取り組みで、未来のロボット共存社会に対応できる学生・大学院生の能力開発を目的とした新たな教育研究の展開も目指しています。



Jr. ロボットスクールの様子

4 埼玉大学 (関東・甲信越支部) 埼玉大学フェロー制度 第1号は芥川賞受賞作家・池澤夏樹さん

埼玉大学では、2010年に「埼玉大学フェロー」制度を発足させました。これは同大学の卒業生などの中から経済、文化、スポーツ、学術、政治、法曹、行政、教育、国際交流などの各界で優れた業績・功労を上げた者に対して、「埼玉大学フェロー」の称号を授与するものです。

11月22日には「埼玉大学フェ

ロー」第1号の芥川賞受賞作家・池澤夏樹さんに来校頂き、称号授与の後、記念スピーチをして頂きました。

この制度によって、在学生や卒業生たちが、母校に一層の誇りを持ち、称号の授与を目指して活躍してもらいたいと願っています。



フェロー称号記を手にする池澤夏樹氏と、制度の発案者である上井喜彦学長

2 山形大学 (東北支部) 山形大学雪合戦大会

山形大学では、2009年度から「山形大学雪合戦大会」を開催しています。雪国発祥のスポーツである雪合戦を通して、雪国山形で学んでいることを再確認するとともに、学部間の交流を目的としています。学生主体の雪合戦大会実行委員会が中心となって企画・運営を行い、審判は参加チームのメンバーが務めます。

2月12日に行われた第2回大会では、寒さを忘れるほどの熱い戦いが繰り広げられ、第1回大会を上回る盛り上がりを見せました。

今後は北海道の昭和新山で行われている国際雪合戦大会への出場も視野に入れ、この大会の継続と拡大を目指します。



雪合戦大会の様子

7 高知大学 (中国・四国支部) 土佐フードビジネスクリエーター (FBC) 人材創出事業を推進

高知大学では「土佐フードビジネスクリエーター (FBC) 人材創出」を展開しています。ここでは食品製造・加工、品質管理などの技術とマーケティングや経営学などのマネジメントに関する講義、地域企業などでの実習、受講生から持ち込まれる課題解決の3コースの教育プログラムが学べます。

2009年度までに48名が修了し、地域食品産業の中核の人材として活躍しています。修了後も、講師陣を交えた商品の開発・改良に向けた情報交換会を行い、地場産品の特色を生かした商品が次々に生まれています。高知県からも、期待が寄せられています。



成果商品。左から「しょうがのリキュール」、「ノンオイルのドレッシング」、「緑のトマト金色ジャム」、「トマトソース」、「トマトジュース」、「にんじんアイス」など

8 宮崎大学 (九州支部) 「みやだい育メン養成講座」を開催

宮崎大学では男性教職員を対象に「みやだい育メン養成講座」(全3回)を開催し、22組の親子が参加しました。

第1回は絵本の読み聞かせ、第2回はビニール袋を使ったおもちゃ作りに取り組みました。第3回に行った「パパの愛情お弁当&パパ友作り交流会」では、普段はあまり料理をしないパパたちが懸命に弁当作りに挑戦。完成後は子どもと仲良く味わいました。さまざまな部局で働く教職員が参加し、育メン同士の交流のきっかけとなりました。

同大学はその他にも、学内保育所「くすの木保育園」の運営や育児・介護に関する相談窓口の設置など、子育て支援に取り組んでいます。



慣れない弁当作りに取り組むパパたち

5 名古屋大学 (東海・北陸支部) 愛知県教育委員会と連携し 「高校生防災セミナー」を開催

名古屋大学では教育委員会と連携して、県内15校の高校生を対象に「高校生防災セミナー」を開催し、学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーの育成に取り組んでいます。

参加者は夏休みに地震や風水害の発生のメカニズム、耐震技術による災害の抑止、被災者による体験談などを学び、防災活動のアクションプランを作成

し、2学期中にプランに基づいて、高校や地域で防災にかかわる実践活動に取り組みます。12月24日には「高校生防災フォーラム」で、おのおの実践した活動成果を報告しました。

2年目以降はこの経験を生かし、小中学校や地域での防災活動を主導する、高校生防災リーダーとしての活躍が期待されています。



高校生防災セミナーの様子

6 奈良女子大学 (近畿支部) ロボット研究には 繊細な女性の感性を

奈良女子大学では「女性」ならではの感性を活用し、これまでにない繊細な皮膚感覚と、その感覚を自然な表情で表現するアンドロイドの研究開発が行われています。

同大学には布の触感(風合)研究の長い歴史があります。今回の研究開発は、こうした伝統的学問とセンサ、ヒュー

マンインタフェース、ロボット、認知科学などの異分野が融合することで、新しい研究領域が切り開かれる一例です。

同研究は大阪大学や慶應義塾大学の他、企業と共同で進められており、日常生活の質的向上に深い関心を持つ女子学生と、社会との多様な連携の成果が期待されています。



研究開発が進められるアンドロイド

今、 学生は!



使いやすいように、削ったり鉛を貼ったブーメラン



練習では互いにフォームのチェックや風向きのアドバイスを行う (左/芳賀祐馬さん、右/深澤景光さん)



「トリックキャッチ」の技の一つ、ブーメランを足で挟んでキャッチする

よい成績を収めることで ブーメランの普及に貢献したい

京都大学の「く」は全国で唯一のブーメランサークルです。2010年開催のローマ大会では、深澤景光さんがカイリー競技という、古来オーストラリア先住民が狩猟に用いたブーメラン種目で世界一になりました。ブーメランの魅力について語ってもらいました。

個人個人それぞれの 楽しみ方ができるサークル

——サークルに入られたきっかけと
普段の活動を教えてください

芳賀 ブーメランサークルって一体何をやってるんだという珍しさに引かれました。

深澤 僕は中高と野球をやっていたのですが、今までやってないことをしようと思っていたら、ブーメランサークルは京大にしかないといわれて、それと実際に日本代表がいて、世界大会にも出場していると聞いて、そこに引かれましたね。

芳賀 「く」は今年で設立7年目になります。メンバー全員が競技をやるわけではなく、競技をやる人、ブーメランを作る人などそれぞれが自分でやりたいことをやっています。

サークルの活動としては、ハイシーズンといえる春から秋にかけては週に1回、放課後グラウンドを確保

しますが、参加は各自に任されています。

深澤 サークルのメンバーは約20人ですが、競技とその他では4・6ぐらいです。

大会に出るメンバーがもっと増えてほしいので、普及活動に力を入れています。年に1、2回、頼まれれば学外での講習会もやっています。

——ブーメランの競技とは
どういうものですか

芳賀 ブーメラン競技は投げて、戻ってきたら取るのが基本で、飛距離、キャッチ、正確さがブーメランの3要素です。

国内大会で行われる競技は全部で6種目あり、それぞれ目指すものが違います。まず「ファストキャッチ」は、飛ばして取るまでの時間の早さを競う競技。いかに正確に戻せるかを競う「アキュラシー」。「エムティイー」という滞空時間を競うもの。取り方を工夫する「トリックキャッチ



チ」。飛距離と、中心からどれぐらいい近い地点でキャッチできるかを競う「オージラウンド」。「エンデュランス」という、5分間で何回投げ取ってを繰り返せるかを競うものがあります。

国内大会は年間4回あり、サークルの誰かが出場しています。大会は最低半径50メートルの円がかけて、その外側にもスペースがある場所が望ましいので、河川敷や大学、企業のグラウンドで行われることが多いですね。

深澤 2年に1度開かれる世界大会特有の競技としては、6種目に加え



大会現地で借りて、そのままもらってきたというブーメランと優勝の盾

ローマで行われた世界大会で優勝した種目、カイリーの投てき

て、4人1チームで戦う団体戦があります。団体戦はチームで投げた合計タイムを競ったり、チームリレーというものがあります。

日本のブーメラン競技人口は約70人で、世界の中で比べると意外と多いと思います。

自作の道具で世界に挑む ブーメランの魅力伝えたい

——ブーメランの魅力と

上達のコツは何でしょう

深澤 競技人口が少ないスポーツなので、すぐに上が目指せるのが魅力ですね。勧誘時の殺し文句は「世界に一番近いサークル」。団体競技とは違い、個人競技らしく、自分の出来が素直に出るところも面白いと思います。

芳賀 手作りのブーメランはプラスチック板から作るのですが、板を自分で切り出して削ると、競技で使えるブーメランになるのが魅力です。

深澤 上達のコツはブーメランを楽しむことです。最初に投げて初めて戻ってきた時の感動を忘れない。伸びる部員は積極的に自分で投げられるし、積極的に作ろうとします。

芳賀 競技で一番大事なのは経験です。長くやっている人は本当にうま



指を中央に空いた穴に入れてブーメランをキャッチする

い。ブーメランがどう動くか分かっていますね。

深澤 風向きに対してどの方向に、どの角度で投げるかを判断し、狙った所に正確に投げ、その後の軌道を予測して取るということが出来る。イメージ通りに何度も投げられる経験と集中力が必要で、パワーはあまりいりませんね。

——これからのお2人の目標を
教えて下さい

深澤 サークルに入った時の目標は日本代表でしたが、その夢は叶っておまけに正式種目ではありませんが世界一にもなれました。ただ、いくらマイナースポーツとはいえども、トップの壁は思った以上に厚かった。普及活動にも力を入れたいと思っていますが、やっぱり日本代表や世界一の肩書きがあると取り上げられ方も違うので、競技を頑張ることが普及につながるんじゃないかと思っています。ですから、一番の目標は、次回の2012年のブラジル大会に出場して、今回世界一になったカイリー競技で防衛することですね。

芳賀 ブーメランってどういうものか知らない人が多いですね。僕もやってみて意外とスポーツ性が高いことに驚きました。インターネットの動画のような自分から発信できるツールを使って、ブーメランの競技や魅力を広めていきたいですね。

JANU Quarterly Report vol.20 March 2011

編集・発行／社団法人 国立大学協会
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
TEL:03-4212-3506

表紙：「土」をモチーフとした書
筆：東京藝術大学 学長 宮田 亮平



社団法人 国立大学協会

The Japan Association of National Universities

<http://www.janu.jp>